

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：32643

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K21729

研究課題名（和文）サハラ以南アフリカ地域における都市部高齢者の課題と政策研究

研究課題名（英文）Policy research on challenges of the urban elderly people in Sub-Saharan Africa

研究代表者

山本 秀樹（YAMAMOTO, HIDEKI）

帝京大学・薬学部・教授

研究者番号：50243457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではナイロビ市内のキベラスラムの訪問視察を行い、ケニア国内の大学（ケニヤッタ大学・ジョモケニヤッタ農工大学）の研究者らと意見交換をした。2023年5月に代表の山本と分担研究者の大安らが、JICAケニア事務所において同国教育省と協力して「生涯教育と公衆衛生の連携」に関するワークショップを開催した。我が国の公民館をモデルにしたCLC(Community Learning Center)を地域社会における生活課題を解決する場として活用し、地域社会における住民主体の学習活動によって都市部における高齢者の孤立防止、支援等を地域社会において包括的に解決していくという政策提案を行う事が出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、保健医療の改善により平均寿命が延びて世界規模で高齢化が訪れているが、サブサハラアフリカ諸国における知見は少なかった。本研究では、地域社会におけるSDGsの推進に取り組んできた岡山や東京（板橋区）等の日本の経験を生かして、我が国の公民館をモデルにしたCLC(Community Learning Center)を活用した「ソーシャルキャピタルの醸成」が重要であり、現地の研究者らを巻き込み実施できたことは意義深い。ケニア教育省もユネスコが提唱したCLCを導入する動きとなり、保健セクターとの連携によりより良いINCD（非感染症）対策や元気で健康な高齢者を育成することに繋がる事が期待できる。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we visited Kibera Slum in Nairobi and joint research with the researchers from universities in Kenya (Kenyatta University and Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology). In May 2023, Dr. Yamamoto and Dr. Oyasu held a workshop at the JICA Kenya office in cooperation with the Ministry of Education in Kenya. The aim of the workshop was "Linkage between Lifelong Education and Public Health". We proposed the policy to use Community Learning Centers (CLCs), that are modeled after "Kominkan" in Japan, as a place to solve life issues in local communities, and to prevent isolation of and support for the elderly in urban areas through resident-led learning activities in local communities. The project has made a policy proposal to Sub-Saharan African countries to create the sustainable communities to prevent the isolation and support for the elderly in urban areas through resident-led learning activities based on the Kenyan experiences

研究分野：国際保健学、公衆衛生学、生涯教育

キーワード：Global Ageing サブサハラアフリカ SDGs 公民館 CLCs 住民参加 ケニア ザンビア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

西暦 2000 年から 2015 年にかけて地球規模で MDGs(ミレニアム開発目標)達成に取り組んだ結果、各国で低栄養や感染症による死亡が減少した。サブサハラアフリカ諸国でも平均寿命も進展し高齢者の数が増加すると予想されている。(Moges,Tamiya,Yamamoto 2014) 高齢化対策には社会・文化の特性を踏まえた対策が必要である。アフリカ諸国は部族制度と大家族制度に基づいた社会制度が機能していたが、近年の急速な都市化でこれらの伝統的社会制度が変容しつつある。例えば、ケニアでは 1963 年の独立時には首都ナイロビの人口は 27 万人であったが、2015 年の推計では 370 万人に増加し、2030 年には 520 万人に達することが予想されている。急激に都市に流入した人の多くは部族固有の地を離れてナイロビのスラムに居住しており、都市に流入した人々(かつての成年層)は劣悪な都市環境であるスラムの中で高齢者として生活し続けることを余儀なくされている。

2. 研究の目的

2015 年に採択され 2030 年までの 15 年間の国連開発目標である SDGs (Sustainable Development Goals) においても、都市における課題を重視しており目標 11 において、「都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする」としており、具体的に「都市部における脆弱な立場の人々(女性、子ども、障がい者、高齢者)に配慮した社会システムの構築」を提唱している。このように、現代アフリカで実施可能な高齢者支援システムを構築する研究を行う必要がある。東アフリカのケニア共和国、ザンビア共和国を主とした調査研究対象国として選定し、他のサブサハラアフリカ諸国における知見から政策提言を行い、他の国に波及させることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究において、ケニア共和国とザンビア共和国の 2 カ国を選び、それぞれの首都であるナイロビ市とルサカ市における低所得地区(スラム)をパイロット地区として選定して、現地居住者や研究者(ケニア共和国:ケニア国立医科学研究所:KEMRI、ケニヤッタ大学、ジョモケニヤッタ農工大学(保健医療科学院)、ザンビア共和国:ザンビア大学の研究者およびルサカ市内(チャワマ地区)の住民リーダーからの聞き取りを行った。

1) 政策評価(東南アジアとサブサハラアフリカ地域)(山本・田宮・野口・林・大安)

サブサハラアフリカにおける高齢化対策の評価を行う前に、発展途上国全般における高齢化対策についてレビューを実施した。高齢者への取組を始めた東南アジアにおける政策課題、国際機関(UNESCO・ESCAP 他)、国際 NGO(Help Age International 他)の専門家らと意見交換を実施した。東南アジア各国の課題(都市計画、保健福祉と社会教育の連携等)と解決方法を検討し、サブサハラアフリカ諸国でも実施可能なプログラムを選定した。また、我が国における公民館を活用した高齢者対策等の実情と比較した。

2) 現地訪問調査

a) ケニア(山本・高柳・宮地・増田)

首都ナイロビ(人口360万人)におけるキベラ地区(人口120万人と推定,2010年)における地区を対象に高齢者(10人)へのヒアリングを山本と高柳が行った。(2020年1月)対照地域としてクワレ州の高齢女性に宮地が聞き取りを行った。また、現地における CLC(NGOが運営している)を訪問して運営者らと意見交換を行う機会があった。また、2023年5月に JICA ケニア事務所で開催したワークショップにおいて現状を報告してもらった。

b) ザンビア(山本)

関係機関へのヒアリングとフォーカスグループディスカッション(FGD)

現地のザンビア大学と協力してルサカ市(人口130万人)のチャワマ地区(人口9万人)において、「地域に根ざした持続可能な高齢者政策」に関係する団体である CBO(地域住民団体)や NGO の活動・課題(予算、人員、対象高齢者の数、支援実績等)について聞き取りを行った。当事者である高齢者を公民館に相当する集会施設に集めて抱える課題を検証予定であったが、コロナ禍のため実施できなかった。2023年12月にザンビア共和国を訪問してルサカ市チャワマ地区(未開発居住区)における CLC の運営実施者の Justin Somi 氏と意見交換を行うにとどまった。また、2024年3月にザンビア大学社会学部の Mapoma 博士、Andrew Banda 博士よりザンビア共和国における高齢者の現状について意見交換をへて同国の現状と課題について報告を行う事が出来た。

4. 研究成果

本研究を通じて、ケニア共和国、ザンビア共和国において乳幼児死亡率が低下して、その結果平均寿命、高齢者人口割合も増加している。とりわけ、多産多死で大家族制度のもと少数の高齢者

を多数の若い親族でケアするという制度がケニアの都市部では機能していない。キベラスラムでも 1963 年のケニア共和国の独立後 60 年を経て、高齢者の割合も増加しつつあり (60 歳以上が 4.2%, 2020 年)、若いころにスラムに居住し始めた世代が高齢者としてケアを受ける高齢者として増えてきていることがわかった。長崎大学のケニア拠点があるクワレ県(district)では高齢者(60 歳以上)の割合が 4-8%程度と低いが、人口密度が低く、近くに住む高齢者が家族以外ではなく、高齢者同士が集まる機会がないが、都市部では人口密度が高く高齢者同士が集う場所があれば、集まることができることが判明した。(キベラ地区の Senior Citizen Center 等)

ケニアでは同国教育省が日本の公民館をモデルにした CLC を国の政策として位置づけることが 2024 年 2 月に決定した。CLC と保健衛生との連携、住民参加のプラットフォーム、地域における SDGs の推進拠点として活用することが提言された。この中で、高齢者同士の集いや学びの機会が作る事が出来ると期待される。これらの取り組みが、他の国々に波及することが期待される。

2) 総括会議

最終年度の総括報告として、以下の国際会議をオンラインで開催した。

(国立社会保障・人口問題研究所 林玲子所長開催)

International Workshop 28 March 2024

Population Ageing and Non-Communicable Diseases (NCD) Control Programs in Africa

Date: March 28, 2024

Time: 4:30-9:00 Senegal time / 7:30-12:00 Kenya time / 13:30-18:00 Japan time

Venue: Online (Zoom)

Registration link:

https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZEld-yspzMvHtQUyxvkP2_ShBt-7xCvYoHc

Please register now so that you receive the connection link.

Part 1

Chair: Ken Masuda (Nagasaki University)

Theme: Survey on older persons in Kenya

Time 4:30-5:45 Senegal time / 7:30-8:45 Kenya time / 13:30-14:45 Japan time

Language: English

- Ken Masuda (Nagasaki University) “Interdisciplinary study of middle-aged and older persons in Kwale of southeastern Kenya”
- Kaori Miyachi (Shizuoka University) “Qualitative survey on older women in Kwale”
- Satoko Horii (Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.) “Community perception on the change of older people in physical, psychological status and social role in rural Kenya: anthropological study”
- Discussion

Part 2

Chair: Hideki Yamamoto (Teikyo University) and Kiichi Oyasu (ACCU)

Theme: Life of older persons in urban areas in East Africa

Time 6:00-7:15 Senegal time / 8:00-9:15 Zambia time / 9:00-10:15 Kenya time / 15:00-16:15 Japan time

Language: English

- Salome Olesi Terah (Ministry of Education, Kenya) “Community Learning Center and life-long learning for the preparation of elderly care in Kenya”
- Joseph Mwangi Matheri (Jomo Kenyatta University Of Agriculture And Technology (JKUAT), Kenya) “Toward the Ageing Society of Kenya - From a physical therapy and rehabilitation stand-point”
- Andrew Banda (University of Zambia) “Older people’ s perspectives on ageing: Mechanisms in dynamic interplay with rural-urban places as contested spaces towards adaptive ageing in Zambia”
- Discussion

Part 3

Chair: Reiko Hayashi (National Institute of Population and Social Security Research)

Theme: Population ageing and Non-Communicable Diseases (NCD) control programs in

Francophone Africa

Time: 7:30-8:45 Senegal time / 8:30-9:45 Morocco time / 10:30-11:45 Kenya time / 16:30-17:45 Japan time

Language: French and Japanese (simultaneous translation)

- Ibrahima Seck (Cheikh Anta Diop University of Dakar, Secretary General of the Galien Africa Association) “Galien forum and NCD programs in Francophone Africa (tentative)”
- Latifa Belakhel (Ministry of Health, Morocco) “Multisectoral National Strategy for the Prevention and Control of Non-communicable Diseases in Morocco”
- Discussion

* This workshop is financially supported by Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI) “Challenges and policy research for older persons in urban area of sub-Saharan Africa” (PI: Hideki Yamamoto, Professor of Teikyo University, Japan)

本会議を通じて、主としてケニア共和国で実施されている取り組み、元気な高齢者を増やし、虚弱や孤立することを地域社会として防ぐ社会システム、非感染症による早期死亡や障がいを防ぐためにも、地域社会を通じてNCDs対策を行う事の必要性について、西アフリカ諸国を含むサブサハラアフリカ地域の国々と研究知見を共有して新たな政策提言に繋がることを期待された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Takayanagi, T., McCORMICK, A. & Wambiri, G.	4. 巻 31
2. 論文標題 Parents' perceptions of pre-primary education: A study of children's daily lives in the rural Kenyan village of Narok.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Elementary Education.	6. 最初と最後の頁 31-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本秀樹、長田洋一	4. 巻 2
2. 論文標題 地域社会・学校安全における学校薬剤師の役割とその可能性について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪教育大学学校安全推進センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kaori MIYACHI and Ken MASUDA	4. 巻 22
2. 論文標題 A Preparatory Study of Care for Elderly Women in Rural Kenya	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Arxiu d' Etnografia de Catalunya	6. 最初と最後の頁 127-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 山本 秀樹	4. 巻 17 巻
2. 論文標題 、コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的流行）による社会的影響 基本的人権である学習の権利の制限について「公衆衛生」の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24661/kominkan.17.0_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本 秀樹	4. 巻 17 巻
2. 論文標題 公民館のないところに地域の学びの場を 板橋区におけるESD-CLCモデルの活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 76-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24661/kominkan.17.0_76	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土居 弓子, 山本 秀樹	4. 巻 17巻
2. 論文標題 SDGsいたばしネットワークの活動 「SDGsいたばし宣言」をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24661/kominkan.17.0_82	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大安 喜一	4. 巻 17巻
2. 論文標題 コロナ禍におけるCLC・公民館のコミュニティ学習活動の展開、 国際的議論とアジアの事例による示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 46-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24661/kominkan.17.0_46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masuda Chisato, Ferolin Shirley Kristine, Masuda Ken, Smith Chris, Matsui Mitsuaki	4. 巻 20
2. 論文標題 Evidence-based intrapartum practice and its associated factors at a tertiary teaching hospital in the Philippines, a descriptive mixed-methods study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Pregnancy and Childbirth	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12884-020-2778-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 林玲子	4. 巻 75
2. 論文標題 「長寿化の進展と健康の変遷 日本の場合」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 123-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大冢賀政昭、高橋秀人、林玲子	4. 巻 47
2. 論文標題 ICF活用の実際と展望 第3回 - 統計への活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 705-709
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林玲子	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 生殖補助医療と出生率	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 613-617
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林玲子	4. 巻 75(4)
2. 論文標題 外国人介護人材の人口的側面とその国際比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 365-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jin X, Mori T, Sato M, Watanabe T, Noguchi H, Tamiya N	4. 巻 -
2. 論文標題 Individual and regional determinants of long-term care expenditure in Japan:Evidence from national long-term care claims	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyawaki A, Kobayashi Y, Noguchi H, Watanabe T, Takahashi H, Tamiya N.	4. 巻 -
2. 論文標題 Effect of Reduced Formal Care Availability on Formal/Informal Care Patterns and Caregiver Health: A Quasi-Experimental Study Using the Japanese Long-Term Care Insurance Reform.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics,	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taeko Takayanagi	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 Listen to the Voices of Maasai Women in Kenya: Ensuring the Well-Being of their Families through Collective Actions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of African Development	6. 最初と最後の頁 42-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 山本 秀樹、藤崎 竜一、高柳 妙子、崎坂 香屋子
2. 発表標題 地域社会における多文化共生と災害に関する学習活動とその課題について:岡山市と板橋区の比較(Community based learning on disaster preparedness for the foreign residents toward the multicultural inclusive society _Sharing the experience between Okayama city and Itabashi city).
3. 学会等名 第41回日本国際保健医療学会西日本地方会2023年3月4日(土).
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuichi Ando , Sanpei Ohama , Atsuko Ohama , Nanako Tamiya , Hideki Yamamoto
2. 発表標題 豊かな社会づくりのためのスポーツクラブの役割：日本のあるスポーツクラブの経験
3. 学会等名 第41回日本国際保健医療学会西日本地方会2023年3月4日(土).
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuichi Ando, Sanpei Ohama, Atsuko Ohama, Nanako Tamiya, Hideki Yamamoto
2. 発表標題 Do Sports Clubs Contribute to Community Wellness? An Empirical Study of One Spot Club 's Experience in Japan.
3. 学会等名 5th SAJU Forum Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takayanagi, T.
2. 発表標題 To whom does Mother Tongue Education matter? A perspective of Maasai parents of pre-primary schoolers in the rural Kenyan village of Narok.
3. 学会等名 The 66th Annual Conference of the Comparative and International Education Society (CIES), Minneapolis, U.S.A. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takayanagi, T.
2. 発表標題 Gender and Shamanism in Kyrgyzstan.
3. 学会等名 Seminar series of Gender and Religion at the Faculty of Social Sciences, Chiang Mai University, Thailand. (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hilomi Iwai, Hideki Yamamoto
2. 発表標題 Shearing the Experience of Cattle-related Injuries in Japan: For Occupational Health in Livestock Industry
3. 学会等名 5th SAJU Forum Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 増田研, 林玲子, 野口晴子, 堀井聡子, 宮本真二, 宮地歌織, 吉野龍史, 山本秀樹
2. 発表標題 アフリカの村落における高齢者のケアと健康：人口動態サーベイを活用した人類学・国際保健学・人口学の混合アプローチ
3. 学会等名 海外学術フェスタ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 難波祥子, 森保妙子, 増田 研, アフメド・ハサン・ファハル, 金子聰
2. 発表標題 スーダンにおけるマイセトーマの診断と治療の遅れに関連する社会的および行動的要因
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田研, 林玲子, 発表者：菖蒲川由郷, 堀井聡子, 野村亜由美, 宮地歌織, 吉野龍史
2. 発表標題 シンポジウム「コロナ禍のアジア・アフリカにおける高齢者の生存：地域社会と保健システムを模索する」
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋裕典、早川千晶、深川虎次郎、高柳妙子、山本秀樹
2. 発表標題 シンポジウムーGo to Africa
3. 学会等名 第25回日本渡航医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiichi Oyasu
2. 発表標題 Information and Communication Literacy for All Stakeholders
3. 学会等名 Regional Webinar on Living Well with Super Diversity (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiichi Oyasu
2. 発表標題 Synthes of country experiences on adult education policies and practices of East Asia
3. 学会等名 Regional Forum on Asia-Pacific inputs to the 7th International Conference on Adult Education (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池谷美衣子、大安喜一
2. 発表標題 公民館と持続可能な開発のための教育 (ESD) をめぐる国内外ネットワークの形成
3. 学会等名 公民館学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiichi Oyasu
2. 発表標題 Promotion of Sustainable Development through Kominkan in Japan
3. 学会等名 2021 China CLC Annual Meeting and Workshop in Inter-sectoral Collaboration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本秀樹、大安喜一
2. 発表標題 コロナ感染症と公民館 - ポストコロナ社会を拓くために
3. 学会等名 日本公民館学会7月集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本秀樹
2. 発表標題 持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)と公衆衛生 「だれも取り残さない」と法医学の役割
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本秀樹
2. 発表標題 Global Ageing の政策研究 都市における高齢者の課題SDGsの観点から、
3. 学会等名 日本国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本秀樹
2. 発表標題 シンポジウム課題研究2 「SDGs(Sustainable Development Goals)と公民館」
3. 学会等名 日本公民館学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本秀樹、齋藤真哉
2. 発表標題 東京都板橋区における地域団体を主体としたSDGs実施の取り組みと社会教育施設の役割について
3. 学会等名 日本公民館学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 「TICADに高齢者イシューを持ち込む」
3. 学会等名 日本国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 エチオピアにおける社会福祉政策の展開、1960年代から現在まで
3. 学会等名 日本国際保健医療学 西日本地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori MIYACHI and Ken MASUDA
2. 発表標題 "Anthropological Study on the Care for Elderly Women in Rural Area in Kenya" International Conference "Caring for Elderly and Dependent People: Promoting Gender Equality and Social Justice"
3. 学会等名 International Conference "Caring for Elderly and Dependent People: Promoting Gender Equality and Social Justice" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ken MASUDA
2. 発表標題 "Population Aging in Africa: Anthropological perspective"
3. 学会等名 TICAD VII Official Side-Event "Towards Population Ageing in Africa;Current Approach to Elderly Care, and Lessons to be Shared Across Continents" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 「アフリカの高齢者ケアをめぐる「3つの神話」を問い直す：社会福祉と親族研究の接続領域から」
3. 学会等名 比較家族史学会 第65回春季研究大会シンポジウム「世代間関係」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研・林玲子・野口晴子・山本秀樹・福田英輝・宮地歌織・Morris Ndemwa・金子聡
2. 発表標題 「アフリカ農村部高齢者の生活・健康・ケア：ケニア、クワレ県におけるHDSSを用いた研究の予備的報告 (Life, Health and Care among the Elders in Africa: A Preliminary Report on HDSS-based research in Kwale County, Kenya)」
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayashi, Reiko
2. 発表標題 Human Resources for Health and Social Work in Sub-Saharan Africa - International Comparison of Demographic Aspects
3. 学会等名 International Comparison of Demographic Aspects
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陣内裕成、田宮菜奈子、光武誠吾、土屋瑠見子、伊藤智子、金雪瑩、山岸良匡、石崎達郎、吉江悟、飯島勝矢：
2. 発表標題 高齢者の施設入所利用に影響する生活機能と行動心理症状：介護保険サービス利用者のコホート内症例対照研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nanako TAMIYA
2. 発表標題 “ long-term care strategies in elderly people What do we need to implement better health care and improve user perception? ” As a speaker in meeting “ Policy Dialogue on ‘ Health Across the Life Course ’ ; Prevention Measures to support an ageing population within APEC economies
3. 学会等名 APEC2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nanako TAMIYA
2. 発表標題 Adapting health systems to support healthy aging; lessons learned and future strategies, 9th APEC High-Level Meeting on Health & the Economy “ Healthy Economies in an Aging World
3. 学会等名 APEC2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sugiyama T, Sugita-Yanagisawa A, Tanaka H, Ihana-Sugiyama N, Imai K, Ohsugi M, Ueki K, Tamiya N, Kobayashi Y.
2. 発表標題 Cumulative incidence of treatment-requiring diabetic eye disease by situations where diabetes was diagnosed
3. 学会等名 IDF Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 増田 研・椎野若菜 (編著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 『現場で育む フィールドワーク教育 (FENICS 100万人のフィールドワーカー第4巻)』	5. 総ページ数 220
3. 書名 古今書院	

1. 著者名 大安喜一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 22
3. 書名 「ESDとCLC」 佐藤一子、大安喜一、丸山英樹編著 『共生への学びを拓く SDGsとグローバルな学び』	

1. 著者名 Kiiichi Oyasu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 DVV Intenational	5. 総ページ数 20
3. 書名 Public Financing of Popular Adult Learning and Education in Japan, Chris Duke, Heribert Hinzen, Ruth Sarrazin, Public Financing of Popular Adult Learning and Education	

1. 著者名 増田研（分担執筆）、牧野久美子・岩崎えり奈（編集）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 471
3. 書名 新世界の社会福祉	

1. 著者名 Taeko Takayanagi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge Research in International and Comparative Education	5. 総ページ数 196
3. 書名 Routledge Research in International and Comparative Education	

1. 著者名 林玲子（分担執筆）、布野修司（編集）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 972
3. 書名 世界都市史事典（「ダカール」「サンルイ」を分担執筆）	

1. 著者名 林玲子（王偉：訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 社会科学文献出版社（中華人民共和国）	5. 総ページ数 12
3. 書名 中日両国 共同対応人口老齡化挑戦	

1. 著者名 Reiko Hayashi ed.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Demand and Supply of Long-term Care for Older Persons in Asia	5. 総ページ数 42
3. 書名 ERIA Research Project Report 2018, No.8	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	増田 研 (Masuda Ken) (20311251)	長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授 (17301)	
研究分担者	林 玲子 (Hayashi Reiko) (70642445)	国立社会保障・人口問題研究所・国際関係部・部長 (82628)	
研究分担者	野口 晴子 (Noguchi Haruko) (90329318)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	田宮 菜奈子 (Tamiya Nanako) (20236748)	筑波大学・医学医療系・教授 (12102)	
研究分担者	大安 喜一 (Oyasu Kiichi) (50789576)	東京医療保健大学・未登録・特任教授 (32809)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高柳 妙子 (Takayanagi Taeko) (30444706)	早稲田大学・国際学術院（アジア太平洋研究科）・日本学術振興会特別研究員 (32689)	
研究分担者	宮地 歌織 (Miyachi Kaori) (40547999)	佐賀大学・芸術地域デザイン学部・客員研究員 (17201)	
研究分担者	藤崎 竜一 (Fujisaki Ryuichi) (00527442)	帝京大学・医療技術学部・准教授 (32643)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Population Ageing and Non-Communicable Diseases (NCD) Control Programs in Africa	開催年 2024年～2024年
--------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関